

私が私になるまで

酒水(しゅすい)

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

これはとあるV t u b e rがどのようにしてV t u b e rへの道へ歩むことになったのか、配信の内容を噛み砕きアレンジしたものです、そのVの方には内容の確認、要望も行っております。

# 目次

私が私になるまで	1
私が私になった後	4

私が私になるまで

いつからだろうか、社会の歯車の1部になったように同じ生活を送り始めたのは……

いつからだろうか、私の見る景色の色がなくなり始めたのは……

学生の時は良かった、友達に学校に会い、無駄なことと笑い、これからの未来を語り、カラオケで皆と大好きな歌を歌っていた。

でも私だけが地方に就職となり皆と別れることになった、会えない訳では無いが、それでも皆忙しいと会えるタイミングがなかった……そんな毎日を過ごし、いつからか大好きだった歌を忘れ、自分からなくなっていた。

その日のいつものように職場に行き、生徒達と会話をしている時だった。

「先生ってこの曲知ってる？」

もし、人生のターニングポイントと呼ばれる場所を聞かれた時、自分は真っ先にこの時を答えるであろう。

動画のタイトルにはNEXT COLOR PLANET / 星街すいせいと書かれている動画だった、そこには1人の女性がいた。

この声を聞いた時、私の目に色が戻った、急いでこの声の主を確認した時に私は、初めてその存在を認識した。

「星街すいせい……Vtuber？」

それが星町さんと私の出会いであった。

それからは私はVtuberにハマっていた。

企業のVtuberから個人で配信しているVtuber、様々なVtuberと出会い、私にはある思いがあった。

「わたしもVtuberになりたい」

しかし私もやりたいのは歌ってみただけど、男性Vでボーカルは数が少ない、歌もうまいと自信が言える程でもなかった。

「ダメだなあ、機材の準備とか音源の準備はなんとかあったんだけど、これじゃあ・・・」

体をベッドに投げるドスンという重い音にあるひとつの思いがあった。

ふと空いてるカーテンを見ると夜もふけ寝るにしては早い少し眠気があった、そんな中私は一つの思いにふけていた。

(女性になれたらなあ、その方が綺麗な音も出せるし、歌える幅も増えるのに・・・)

瞼の裏に焼き付いているのは星街さんの姿と耳に聞こえるのは歌声、そんな私は眠りにつくのだった。

朝日が私の目に入る、あのまま寝てしまったのだろう、幸い今日の仕事は休みなので、またゆっくり考えることが出来ると体を起こした時に身体に違和感があった。

身体がいつもより軽い、少し重心が前のめりになっておりバランスを崩す、その時に私は見た、正確にはいつも見えているはずの床が見えず、自分には無いはずのものが見えるのである。

「え、なにってなんか声がいつもより高い!？」

急いで近くにあった鏡を見る、そこには綺麗な顔立ちに長い髪、男にはない身体のおうとつがあった。

「なんで私、女性になってるの?」

昨日の行動を考えても変なこととはしておらず、原因が分からなかった。

こんなことになってしまって普通はパニックになる所であるが何か私はある考えに思いついた。

「これだったらVtuberになれるんじゃないかな?」

そこから何故か私の行動は早かった、配信の仕方や立ち絵の準備の依頼、他の準備を始めていた。

それから1ヶ月後

私の目の前にはパソコンとマイク、そして数は少ないが待機して  
れている、リスナーが居てくれていた、息を整え配信開始のボタンを  
押す。

「えっと、これで聞こえてる？初めまして、はやかわりんねです」  
これは私が私になるまでの話である。

## 私が私になった後

初めての放送から時が過ぎるのも早く、その間に私の生活は変わった。

女性になってから仕事場に行っても特に変わったことも無く生徒達からも心配されることは無かった。

生徒達にV t u b e r やっていることはバレているが……

それから私は活動を広げ今では歌い手としてだけではなく、とあるV t u b e r のマネージャーも努めることにもなった。

「天羽（あまう）、今度の配信の内容をミーティングで話したいんだけど……」

「うん！なにになに？」もぐもぐ

「……………天羽、お菓子食べ過ぎだから、今度からお菓子自粛期間ね」  
「ええ!?そんなく」

まあこんな子ですが可愛らしい私がマネージャーを務める、お菓子の食べ過ぎで天界から落とされた天使の天羽しろつぷ、はちゃめちな生活習慣や行動をとるせいでこっちとしてもいつも心配している、何があったのかはここでは語らないこととする。

それと同じく天羽との関係者で私とも付き合いが長いベルガさん  
「そういえばベルガさん今何やってるの?」

「えつとこの前はドラムの打ち込みでその前はボーカルエディット、今はミックスやってる」

ほんとこの人音楽関係で出来ること無いんじゃないかって、つくづく思うけどそれだから今でも頼りになる。

「それで今度やる曲の件なんだけど……」

頼りになりすぎてちよつと頼りすぎて申し訳なさがあるけどいいのかな?

そして妹も出来た

「はい、みんなこんばんはくはやかわりんねです、今日も姉妹で麻雀やっけて行くよ」

「はい、どうも嗣春（つぐはる）うううううらいかでございます！」  
すごい巻舌で自己紹介しているのが私の妹の嗣春らいか、落語のV  
を目指してやってるはずなのに最初の生放送で耐久配信をやったせ  
いか、耐久配信のイメージが定着しちゃった私の可愛い妹だ

「お姉ちゃん、大好きだよ〜」

「私も大好きだよ〜」

こんな風にてえてえ？つてやつをよくやりながらも実際仲がよく、  
コラボで麻雀をやっている。

そしてV t u b e rを始めて半年以上が経った、今日4月18日は  
私の誕生日記念配信でもあり、私のオリジナル曲のお披露目の日であ  
る。

「録音した動画の予約投稿出来てるよね？最初みたいな失敗はしたく  
ないから確認は何度かしてるけど…」

そんな不安の中予約動画のコメントを見てみると

「あ、いつも見てくれる人達もう見に来てくれてる、スパチャも来た！？  
みんな見に来てくれてる……」

私はパソコンの前でまだ投稿もされていないのに泣いていた、皆か  
らの楽しみのコメントやこの楽曲と映像を提供してくれた方々への  
コメントもあった。

「ぐすっ…まだ泣くのは早いんだけどなあ…いい人達にも巡り会えた  
んだなあ…」

そして投稿予定時間になり、動画サイト特有の大音量のBGMが流  
れ始めた。

「もうこんな時間なんだ、あと少しで…」

この曲には私のしんどかったり辛かったり挫折したところを支え  
てくれた仲間が作ってくれた。

「それでは皆には聞こえないと思うけど聞いてください」

『BONDS』



それから後の話は、誕生日記念配信ではみんなの曲の感想を言い始め、特別ゲストとして、天羽を呼んだら手紙を読み始めて私が号泣し始めたり、これからの一生私が忘れることの無い1日になったのは言うまでもなかった。

Vになつてから半年と少しが経つたが前よりも充実してたりしてなかつたりと悩むこともあるけど私はこれからもシンガーVとして走り続けるだろう。